

利尻山環境フォーラム報告

須間 豊（利尻富士町商工観光課 商工観光係長）
乗富 剛毅（北海道大学大学院農学研究課）

平成 15 年 11 月 1 日に、利尻富士町にて「利尻山環境フォーラム」が開催された。発表者である北海道大学大学院農学研究科の乗富剛毅氏の議事メモにより、その内容を紹介する。

1. 「利尻山環境フォーラム」

1) 主 旨

近年の自然環境問題、とりわけ利尻礼文サロベツ国立公園の百名山・利尻山でも登山道の荒廃、糞尿被害、ゴミ投棄、高山植物踏み付けなどの問題を抱え、人と自然が共生して行くためにはどうすれば良いか課題になっている。最近の登山道荒廃実態調査、携帯トイレの取り組みなど関係者からの報告を通して、利尻山全体の環境問題について考えてみる。

2) 日 時

平成 15 年 11 月 1 日（土） 10 時 30 分～15 時 30 分

3) 場 所

利尻郡利尻富士町駕泊字富士野 利尻富士町役場 二階大会議室

4) ・主 催 ; 環境省 稚内自然保護管事務所

・共 催 ; 宗谷支庁、利尻町、利尻富士町、宗谷森林管理局、
利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会

・後 援 ; 利尻礼文サロベツ国立公園連絡協議会

5) 内 容

- ① 「利尻礼文サロベツ国立公園における利尻山登山道調査報告」（環境省調査）
北海道大学大学院農学研究科 乗富 剛毅
- ② 「利尻山携帯トイレ取り組みについての報告」
利尻富士町商工観光課 商工観光係長 須間 豊
- ③ フリー討論会「利尻山大好き！」
進行；稚内自然保護官事務所 自然保護管 佐藤 勝

2. フォーラム報告内容

「利尻山携帯トイレ取り組みについての報告」；利尻富士町商工観光課 須間 豊

1) 平成 15 年度の登山者数について

環境省設置の赤外線カウンターによる計測結果

2003年7月～10月 ・ 駕泊コース（利尻富士町側）；10,386人
・ 杓形コース（利尻町側） ； 2,855人
合計 13,241人（1ヶ月3,250人、1日100人の計算）

（追加補足データ¹⁾）

2002年6月18日～8月16日 ・ 駕泊コース（利尻富士町側）8,500人
（1ヶ月4,250人、1日141人、最大7/7の699人）

2) 携帯トイレの導入経緯について

平成12年度に、バイオトイレ設置迄の過渡的処置として導入開始し、関係機関（各宿泊施設、観光案内所、警察官駐在所、北麓野営所）にて無料配布。

- ・平成12年度 23,000セットを用意。
- ・平成13年度以降 毎年10,000セットを追加補充している。

3) 携帯トイレの回収状況

- ・平成12年度、平成13年度は、回収率 約6%（回収数600個）
- ・平成14年度は、回収率 約13%（回収数1,300個）
- ・平成15年度は、利尻富士町（駕泊コース）回収率40.5%

利尻町（杓形コース） 回収率29.5% 全体平均39%

携帯トイレ回収率が上がり普及してきたのは、登山者一般に携帯トイレの認識が広がったことと、携帯トイレブースを駕泊コースに4箇所、杓形コースに2箇所設置したことで利用し易くなったためだと思われる。

4) 携帯トイレブースの設置について

スライドで昨年度（H14年度）と、今年度（H15年度）の設置作業状況を説明。

- ・平成13年度 テントトイレブースを両コースとも避難小屋脇に各1基設置
- ・平成14年度 駕泊コース：テントトイレブース1基、樹脂製トイレブース2基
杓形コース：樹脂製トイレブース1基
- ・平成15年度 組み立て式樹脂製トイレブース導入（テントトイレブースは設置せず）
駕泊コース：樹脂製トイレブース4基
杓形コース：樹脂製トイレブース2基

テントトイレブースは積雪前の9月下旬には撤去しなければならず、また、強風等で破損し、修理や取替を余儀なくされることから、樹脂製トイレブースに変更した。

5) 携帯トイレの導入経費について

- ①テントトイレブース 1基 30,000円（人力による設置作業）
- ②樹脂製トイレブース 1基 250,000円（3基で750,000円 設置の際のヘリ運搬費は240,000円；遊覧飛行と兼ねて行ったので運良く格安で済んだ）
- ③携帯トイレ1セット（1人分）の単価は254円（吸収シート1枚130円、ティッシュ2コ24円、緑色密閉ケース100円）

6) 今後の課題・取り組み

- ・平成 15 年度では未使用返却の携帯トイレは 500 個のみであった。携帯トイレの回収状況から考えると、5,700 個は未使用のまま持ち帰られたことになる(めずらしいお土産として?)。今後は、携帯トイレの有料化についても検討が必要だと考えている。
- ・平成 16 年度も利尻山では、携帯トイレ使用にて山岳環境問題改善の取り組みを継続していく予定である。いろいろな方法での広報等を検討していきたい。

3. フォーラムでのフリートーク (午後の部) の議事概要

I ; 「登山道の荒廃について」

1) 「今と昔の状況が、どのくらい変わったか、いつ頃からなのか？」

・ A さん (ペンション経営)

合流点から上部の登山道幅員は、みごとに膨らんでおり、浸食が深い地点も悪化してきている。杓形コース上部 (合流点直下部) は、複線化が進んでいる。杓形コースは、雨が降った後は、登山道が川のようにになっている。

2) 「登山道の荒廃の原因は何か？」

・ B さん (土木現業所)

百名山ブームで、利尻山には一時的に登山者が集中している。ガイドやツアー会社は、6、7、8 月にお客を集める。年間登山者数 13,000 人という数字は、他の山に比べて格段に多い訳ではないが、一時期にこれだけの人数が集中するのは珍しい。登山道の荒廃は、登山者が歩くことによる影響も一つだが、山の性質 (火山地質) というのが大きいと思われる。独特な山の状態だと思うので、基本データの蓄積が必要だと考える。特に 9 合目から上部の登山道の状態がひどい。

・ C さん (パークボランティア)

利尻山はツアー客が多い。残雪期の登山には安全性の面から制限が必要ではないか。杓形コースにおいては、登山道保護の面から、雪が溶けて落ち着くまでは入山制限が必要ではないか。降水量によっては登山をやめてもらう、入山前にレクチャーを受けた人だけ登るとかの検討も必要と考える。

・ D さん (ペンション経営)

登山道の崩壊は雪解けが一番の原因だと思う。登山者が原因ではないと思う。

・ E さん (主婦)

登山道の荒廃は、まず登山者の踏み跡ができ、それを悪化させているものが、水や雪解けであろう。登山者には、事前のレクチャーが必要と思う。例えば、海外のキナバルでは、登山の前日にレクチャーを受けないと登山できない。

- ・ Bさん（土木現業所）

質問になるが、登山道の管理や整備は具体的にどこが行うのか？

回答；そこが難しいところだが、地主は林野庁。国立公園としては環境省。事業主体は、駕泊コースは北海道、杓形コースは利尻町となっている。

II；「糞尿被害、ゴミ問題について」

- ・ Bさん（土木現業所）

トイレブースの設置や、携帯トイレの無料配布には感心している。自治体が努力している。避難小屋のゴミがひどい、避難小屋のバケツをゴミ箱と勘違いしている人もいようだ。入山口（登山口）が二つに絞られるこの山では、事前レクチャーが可能だと考える。

- ・ Aさん（ペンション経営）

携帯トイレの回収率は40%以上となっている。宿泊した人にレクチャーしていると「携帯トイレは有料ですか？無料ですか？」と質問がある。有料にして、使用せずに返却した場合には、お金が戻るというシステムも出来るのではないか。現在、各宿では携帯トイレの使用を登山者に呼びかけているところである。

- ・ Fさん（パークボランティア）

トイレブースは、いたれりつくせりだと思う。携帯トイレの有料化は必要だと思う。利尻山では、携帯トイレを持続的に使っていくことを考えてもいいのではないだろうか。

- ・ Gさん（パークボランティア）

トイレブースの設置もそうだが、現在多くの労力が維持管理にかかっている。ボランティアや有志など、いろんな方に呼びかけ、協力してもらってはどうか。

- ・ Hさん

利尻山は成層火山であり、もろい山である。登山者数を制限したり、有料化も考える必要がある。他にならうのではなく、利尻には利尻のやり方があるはずである。住民が一丸となって、取り組まなければどうしようもない。登山者のマナーに頼っていてはダメだと思う。そういうものだという気持ちで取り組んで行かなければならない。

以上

「引用文献」

- 1) 乗富剛毅、愛甲哲也ほか;利尻山における機器を用いた登山者数の計測と登山届提出状況の検証, 日本造園学会北海道支部大会 研究事例報告発表要旨:会報第7号,2003